

生徒指導だより

防府市立中関小学校 2026.1 第11号

終業式と始業式で子どもたちに、「いったん立ち止まってよく考える」という話をしました。道を渡るときは安全を確認して横断します。

普段学校で気を付けていることは、学校以外でも同じです。たとえば、「言葉づかい」です。「その言葉、言う必要あるかな?」「相手はどう思うかな?」「その言葉で本当に伝わるのかな?」言葉については、文字で伝えるときもよく考えてほしいと思います。

それ以外にも、服装を整えること、名札をつけること、黄色い帽子、赤白帽子をかぶること、時間を守ること、登校班で並んで来ること、下校の時は、自分の帰る道を守ること、いじめをしないこと、元気よくあいさつをすること、ごみが落ちていないきれいな学校にすることなどたくさんあります。たくさんの人と関わりながら学校生活を送るので何事も、いったん立ち止まって「これでいいのかな?」「大丈夫かな?」と、考えながら落ち着いて生活してほしいと思います。

いじめ防止コーナー 「何事も、いったん立ち止まってよく考える」

以下は、いずれも学校外のことですが、12月から1月にかけて実際にあった出来事です。

「友達の許可を得ずに写真を撮って、グループ LINE 内で共有した。」

「友達の許可を得ずに動画撮影をして加工し、グループ LINE 内で共有した。」

「学校から、グループ LINE の QR コードの紙を持って帰ってきた。」

「友達だからいいと思った」や「笑っていたからいいと思った」、「つい、ふざけてしまった」などの理由は通用するのでしょうか。その行為自体が許されるものではありません。

LINE をはじめ、SNS 関連の多くは推奨年齢が設定されていて、使用する本人を含めた家族の意思や保護者の管理下で運用される物なので、学校が積極的に関わるできないのが現状です。そのため、指導が難しい事案は、警察が対応する場合があります。学校としてはやむを得ない対応になってしまいます。SNS やスマートフォンが悪いのではなく、便利に使ってトラブルに巻き込まれないようにするための「善き使い手」になるための学び「デジタルシティズンシップ教育」が大切になってきます。学校でも、そのような情報モラル・リテラシー教育をしていかなければならないと考えています。ご家庭でも、「〇〇な LINE がきたらどうする?」「ゲームの中でこんなことされたらどうする?」など、一歩踏み込んだ「家庭のルール」を家族のそれぞれの視点から話し合っておくといいと思います。〇〇の部分には、悪い言葉や卑猥な言葉が入るかもしれません。あらゆるリスクを想定して、返事の仕方や相手の気持ちを考えた使い方を確認しておくことで、いじめやトラブルの未然予防に繋がります。

スマートフォンや SNS が身近にあり、レスポンスのよさやスピード感に利便性を感じますが、危険性も理解した上で大人も子どもも「いったん立ち止まってよく考える」ことが大切です。子どもたちが被害者・加害者にならないように指導を続けていきますので、ご理解・ご協力をよろしく願います。